



▲全県一のノッポハシゴ車

あなたは「自分が火災の火元になるかも知れない」と考えることがありますか。きつと、十人が十人、そんなことは夢にも思わないに違いありません。しかし、その安心は果して確かなものなのでしょうか。

落ちついて

火の始末

火事は、日本のどこかで毎日数万件発生しています。幸いにして火事にならなかったものの、火事に近い状態を経験され、冷や汗をかいた人は意外に多いのではないのでしょうか。

たとえば、天ぷらをあげている最中とか、天ぷらナベに油を入れて火にかけたままほかのことをしているうちに、油の温度が上がりすぎて油に火が入ったので大あわてしたとか。また、アイロンを使ったあと、コンセン

トから抜き忘れて、アイロン台や畳をこがしたとか。吸いかけのたばこを置き忘れたため、座布団やカーペットをこがしたとか。これは、ほんの一例ですが「ハッ」と思いあたることはありませんか。

火事は

最初の一分間

「火事は最初の一分間」といわれるように、初期の消火が大切です。消防隊が通報を受けてから現場に到着し放水を始めるまでは、普通数分かかります。その間に各家庭では、火事を消しとめるとか、少しでも火の勢いをくいとめるためにすばや

く消火にあたるのが大切です。家庭での消火の備えとしては、○ふだんから浴槽の中に水を十分たくわえたり、防火用水の用意をする
○水道のじや口には、ホースを備えておく
○消火器を備えておく
などがあげられます。しかし、火が出たからといって、必ず水をかければよいというものではありません。天ぷら油に火がついたときは、ぬらしたシーツやバスタオルなどで消すということとはご存じかと思えます。

火事は

まず119番

消防署への火災の通報は、119番へ電話する」ということ

は、だれもが知っています。しかし、知っていても簡単に要領よく知らせることができない人は少ないのです。なかには、110番へ電話しているケースもあります。
119番にかけると、すぐ消防署の人がきます。おちついてはつきりと次の要領で知らせましょう。
① 火事です。
② 町○丁目○番○号
③ 〇〇工場です。または、〇〇さん宅です。
④ 〇〇病院の北側です。(目標をできるだけ詳しく)

※最近、道路への不法駐車が多く見られます。たった一台の不法駐車のために、消防車が火災現場へ行けずに「大火」になるかもしれません。ドライバーの皆様

「防火」に対する心がけを

戦後四度の大火で、市民の皆さんの貴重な財産が数多く焼失したことは言うまでもありませんが、大火のため市の事業が遅れたということもまた事実です。大火が起これば、市では当然その復興に力を注ぎます。すなわち、一般財源から多額の費用を持ち出すこととなります。となれば、計画している事業を取りやめるとか縮小していくことに

なるわけです。このような状態を一度ならず四度も経験したのですから、事業が大きく遅れたことは当然の帰結といえます。御成町二丁目大火から二十年、市民と行政が一丸となり、事業の遅れは取りもどしました。都市計画の推進や消防設備の充実などにより、この二十年大火は発生していません。しかし、今後絶対に大火が起これないとい

さん、不法駐車は交通ルールに反するだけでなく、大災害をも招く行為なのです。



▶広域消防本部では、大火の経験を踏まえて初期消火に重点をおくとともに、予防・査察・指導を強化して災害対策に万全を期しています。

う保証はありません。もし今、万が一大火が起これたら、大館の活性化への道が遠くなりかねません。

「災害は忘れたころにやってくる」。大火を起こさないためには、市民一人ひとりが「防火」に対する日ごろの心がけを大切にするのが、一番の手段なのです。

今一度、家庭で、地域で「防火」について話し合いましょう。安全で快適な住みよい街「大館」をつくるために。